
バカと花妖怪と召喚獣

ほし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと花妖怪と召喚獣

【Nコード】

N2082W

【作者名】

ほし

【あらすじ】

幻想郷から連れてこられた花妖怪こと風見幽香。彼女は果たして文月学園でどのように生きていくのか？
オリキャラも地味に出たりします。後はバカテスのキャラが能力を持っていたりとカオスな事になるためご用心を。

プロローグ(前書き)

本編に係るって事は無いので飛ばしてもらっても全然構わない
プロローグ。

プロローグ

ここは忘れ去られたものが集う場所、幻想郷。

「幽香、別世界に「断るわ」即答しなくてもいいじゃないの……」

「アンタが絡んでロクな事があつたためしが無いのによく言えるわね……」

「本当ですよ……聞くだけ聞きますけど、どこに連れてくつもりだつたんですか？」

その中にある太陽の畑にはこの幻想郷を創り出した八雲紫、花妖怪こと風見幽香、そして数年前にこの世界に來た向日葵が立っていた。

「確か……文月学園って所があつた「行きましようよ風見さん!!」

「どうしたのよ急に……まさか元いた世界とか？」

「ええ、そうですね」

「向日、もう準備はいいわよ」

「行ってらっしゃい、向「風見さんも行きますよ!」ええっ!?!」

こうして、二人の文月学園での戦いは始まつた……

プロローグ（後書き）

はい、開幕オリキャラ出ました。

次回は文月学園に入学させてその後キャラ紹介。

プロローグその2

少年少女移動中……………

〈家〉

「着いたあっ！」

「……………（明らかに面倒な事になった目）」

「あれ、風見さんどうし」「元祖「マスターパーク」」「うわあああ
っ！！！」

「ちょっとやり過ぎたわね……………」

目の前に転がる気絶した人が一人。ちなみに家は多少壊れてもすぐ直る仕様らしい。

「ま、どうせ回復するでしょ」

そういつて散策に出かけた。

十分後。

「痛てて……………何もあそこまでやる必要はねーだろうよ……………」

葵、回復。

「そっぴゃあいつスペルカード使ってたけど俺も使えるのか？」

スペルカード：所詮必殺技的な物。けどそれ自体には何も効果なし。
要するにただの紙。

「じゃあ……………写符「鏡写し」」

すると、放った弾が周囲に写し出される。

「クラッシュ
破壊」

そして鏡が破壊され弾が数十倍の量になって様々な方向に動き出す。

そして……………

「ただいま……………」

ドオン！

「あ……………」
風見さんに直撃した。
「覚悟は……………出来てるんでしょうねえ!!」
「出来てません!」
結局捕まり、石畳の上で正座したまま五時間の説教をくらった。ど
つかの説教が長い人でもこんなにはしないと思うが……………

次の日。

「くっ……………急ぐよ、葵!」
「だからって足引っ張って痛たたたた!」
現在、絶賛引きずられ中。足引っ張られてるせいで後頭部が超痛い。
「風見に向日、遅刻だ」
「あ、おはようございます」
「全く……………とにかく手続きがあるから学園長室に来い」
「分かりましたっ……………」

時は過ぎ……………

「よし、入ってこい」
「私は風見幽香よ。花を大切にしなかつたら殺……………ちよっと厄介にな
るけど宜し」風見さん好きだあーっ!」
何故か一名ほどルパンダイブで飛びかかった。まあ、
「……………元祖「マスタースパーク」」
はい、気絶しました。
「ああ、俺か。俺は向日葵だ。先に言っむかいあおいとくが俺男だからな!」
「……………な、なんだってー!!」……………」

そんなこんなで色々ありながら放課後の屋上。

「いるんだろ? スキマ妖怪」

「あらあら、何の用かしら?」

そう言って両端がりボンで止められたスキマから半分体を出すスキ

マ妖怪。

「分かってるだろ？アイツの事だ」

「ああ、あの吉井って子だっけ？多分……」

「何かしらの能力を持ってるって事だろ？」

「ええ、あの幽香の攻撃を食らって何事もなかった事からすると、何かあるわね」

「そうか、さすがに細かい所は分からなかったか」

あの吉井って奴、面白そうだな。そう思いながら家へと帰った。

プロローグその2（後書き）

スペルカード紹介。

元祖「マスタースパーク」

一人が余裕で入る太いレーザーを傘からぶっ放す。

写符「鏡写し」

一発の弾を様々な位置にある鏡に写し出し、破壊のかけ声で鏡が割クラッシュれて写った弾が実際の弾幕となる。

キャラ紹介したら一気に一巻まで時間をぶつとばす予定。

キャラ紹介

日向 葵 むかい あおい

二つ名：鈍感な心替わり少女

過去にこの世界から幻想郷に連れてこられた男。なんやかんやありながらも風見の家で暮らしている。結構モテるらしいが本人が鈍感すぎるため全く気づいていない。また、顔が中性的なせいで女子と勘違いされたり女装させられたりと散々な目に。
能力：精神を入れ替える程度の能力
その名の通り二人の中身を入れ替える。ただし、対象の二人に触れる必要がある。

得意科目：古典、世界史

苦手科目：なし

世界史、古典は大体500点前後。その他の科目も400点ぐらい。

召喚獣：黒いコートに打ち上げ花火の筒を持つ。また、200点消費してスペルカードを使う事ができる。

腕輪：憑依 ひよついで

一回につき50点消費。味方の召喚獣一体を対象にし、戦闘終了まで葵の点数、操作で戦う。

ここから原作キャラ 変わった所のみ書いてある。

吉井 明久 よしい あきひさ

二つ名：鉄の切り込み隊長

能力：受けた力を吸収する程度の能力

ダメージを吸収し、自分の力とする。ただし、攻撃が強すぎると吸収できず、自分自身が受けていないといけない。

土屋 康太つちや こうた

二つ名：気配の無いムツリスケベ

能力：気配を消す程度の能力

説明：特になし。

木下 秀吉きのした ひでよし

二つ名：声真似のホープ

能力：声を完璧に真似する程度の能力

一度でもその声を聞いた事があれば、完璧に真似する事ができる。
逆に聞いた事が無ければ出来ない。

キャラ紹介（後書き）

次回から原作スタート。

第1問 全ての始まり（前書き）

バカテスト第1問

問題

「調理のために火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを選んだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いる金属合金の例を一つあげなさい」

姫路瑞希の答え

「問題点：マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応するため危険であるという点

合金の例：ジュラルミン」

教師からのコメント

正解です。合金なので「鉄」では駄目という引っ掛け問題でしたが、姫路さんは引っかかりませんでしたね。

土屋康太の答え

「問題点：ガス代を払っていなかった点」

教師からのコメント

そこは問題じゃありません。

風見幽香の答え

「問題点：火力が足りない。マスタースパーク並みの火力でやるべき」

教師からのコメント

鍋ごと焼く気ですか？

向日葵の答え

「問題点…軽いという理由だけでマグネシウムを選んだ製作者の頭。そもそも鍋というのは軽さだけではなく、汚れの付きにくさ、熱伝導の効率などの様々な観点から選ぶべきであり……」（以下略）
教師からのコメント
言い過ぎです。

第1問 全ての始まり

時は過ぎ4月、俺達は2年生となった。

2年生となれば恒例行事と言ってもいい、テストの点数が力となる召喚獣を使った試召戦争が行われる。現在俺は――

「何でアンタの時計止まってんのよ！」

「知るかよそんな事！ってかお前飛んで行けよ！」

現在、全力ダッシュ中である。ちなみに俺は飛べない。だって人間だもの。

「風見に向日、もう少し余裕をもって来い」

そう言つて目の前にいたスネ……じゃなくて西村先生。人間離れした運動能力、趣味がトライアスロンから鉄人と呼ばれている。正直この人妖怪なんじゃないかと時々思う。

「おはようございます、鉄人さん」

「おはようございます、スネーク先生」

「……………お前達は名前だけ覚えられんのか？まあいい、クラス分けの紙だ。受け取れ」

そう言つて自分の名前が書かれた封筒を渡してくる。そうそう、このクラスつてのは成績が良ければAクラス、悪ければFクラスって具合になつてる。でもってクラスによって設備も変わる。Aには豪華に、Fにはボロボロって感じに。で、その設備を奪い取るための唯一の手段がさっきの試召戦争つてやつだが――まあ、要するにいい設備にしたきや勉強しろつて訳だ。

「それにしても風見に向日、惜しい事をしたな。お前達は確実にAクラスだと思つていたが……………」

「別に今回、俺は風邪ひいただけですしね」

「全く、こつちの苦労も考えなさいよ……………ま、私はFクラスで逆に良かったけどね」

「珍しいな、Fクラスを望むのは」

「だって、Fクラスとなったら多分一番戦争に関わりがありますよね？戦いと聞けば……フフフ……」
あ、スイッチ入ってるな、こいつ。って時間1分しか無いんですけど！

「そうか、お前はそんな奴だったな」

その言葉を鉄人から聞いた直後、俺と風見はFクラスへと向かった。

第1問 全ての始まり（後書き）

「展開が早すぎる」とのアドバイスを頂いたため、今回はじっくりとした感じで書いてみました。

風見「いくら早く書きたいからってそれじゃ本末転倒よ」

作者「……………否定できないな」

向日「そんな訳で次回！《花妖怪と自己紹介》お楽しみに！（タイトルは変わる恐れがあります）」

第2問 俺と幽香さんとFクラス(前書き)

次回予告とは何だったのか。

第2問 俺と幽香さんとFクラス

現在、Fクラス前。「2-F」のプレートが折れかかってるあたり
嫌な予感しかしない。

「さつさと入るか」

「ええ、それより荷物置いたら一回闘らない？」

「はいはい、……少しは手加減してくださいよ？」

ちなみに今まで幽香さんと600戦近くしたが1回たりとも勝った
ことが無い。強すぎます。

「邪魔するぞ」

「早く座れ、このウジ虫野郎共」

やつちまったな、雄二。

「へえ……？いい度胸じゃないの？」

「ちょ、ちよつと待て……」

「ちよつと、向こうでO H A N A S H I しましょっか？」

幽香さん&雄二退場。

「全く……お主らは「元祖『マスタースパーク』」いつも通りじゃ
のう……」

「お、秀吉か。お前も「ぎゃああああつ！！」Fクラスか」

「そうなんじゃが、何故お主が」

「葵、時間も無いしさつさと闘うわよ」

「ああ、スペカは4枚でいいな？」

「ええ、それじゃあ」

「「スペルカード、セット！！」」

少年(?) 戦闘中……

「負けた……」

やつぱり負けましたよ。はい。改めて設備を見ると

卓袱台、畳、座布団。うん、なんて斬新な設備なんだ。で、HRス

タート。

「えー、おはようございます。Fクラスの担任を務めます……………」
福原慎です。よろしく願います」

福原先生が薄汚れた黒板に名前を書こうとして、やめた。このクラスはチヨークすらろくに用意されていないのか。

「皆さん全員に、卓袱台と座布団は支給されてますか？ 不備があれば申し出てください」

先生、この設備自体が不備です。

「座布団に綿が入ってないんですけど」

「我慢してください」

「卓袱台の脚が折れてます」

「木工ボンドが支給されてるので、後で自分で直してください」

「窓が割れてて隙間風が寒いんですけど」

「ビニール袋とセロハンテープを申請しておきますので、後で直してください」

これはひどい。しかも壁すら割れかけてるし。……………今度にとりでも連れてきて修理頼むか？ いや、魔改造されそうだからいいか。一週間前に花火の筒渡して「小型にしてくれ」って頼んだらライトにもなるっていう無駄な機能つけてバズーカになって返ってきたくらいだし……………」

「それでは、自己紹介をお願いします。そうですね、廊下側の人からお願いします」

第2問 俺と幽香さんとFクラス(後書き)

幽香：……………言い訳は？

作者：……………さらばだっ！

ガシッ

作者：……………！！(肩をつかまれている)

幽香：さて、覚悟は良いかしら？

作者：全然出来てないでぎゃあああっ！！

花妖怪処刑中……………

葵：そんなわけで次回こそ自己紹介です。

第3問 花妖怪と自己紹介

「それでは、自己紹介をお願いします。そうですね、廊下側の人からお願いします」

「木下秀吉じゃ、演劇部に所属してある。今年1年よろしく頼むぞい」

声を完璧に真似する程度の能力を持っているが本人の演技力ゆえに正直『見たことのある人を完璧に真似する程度の能力』でいいと思っっている。一応男らしい。(本人談)だが周囲からは女子扱い。

「……………土屋康太」

おう、いたのか。知名度があだ名のムツツリー二>二つ名の気配の無いムツツリスケベ>>>本名という異常な式が成立してる男。ムツツリスケベに関しては否定してるらしいがバレバレである。

にしても女子は幽香さん以外ないのかこのクラスは。まあ最底辺のFクラスだし

育ちはドイツだったので。趣味は……………」

あ、女子の声。少しはむさ苦しさや和らぐ

「向日を殴ったり女装させる事です」

代わりに俺が大変な目に遭いそうだ。

「はるはる」

「よ、よろしく……………」

さつき自己紹介したのは島田美波。下手に隙を作ろうものなら何かしら仕掛けてくる(時々幽香さんもついてくる)個人的には危険度SSSランクの人物である。

「向日葵だ。一年よろしく頼む」

「風見幽香よ、一応この隣にいる　バカと一緒^葵に暮らして「総員狙えええつ!!」」

来て早々なんて核地雷を持ち出してるんだこの人は!!

とは言っても焦る必要は無い。鞆からバズーカ（ライト付き）を取り出し

「見習『とろ火のマスタースパーク』」

全員気絶しました。

「相変わらずアンタのは火力低いのね」

「そりゃ普通の人間ですから限界って物がありますよ」

「けどどこかの泥棒は人間よ？」

「……………頑張ります」

俺は思った。そのうち人間やめるんじゃないかと。

「あの、遅れて、すいま、せ……………ん……………?」

そこには、本来いるはずの無い者、姫路瑞希がいた。

「あゝちくしょう、死ぬほど眠い……………」

それを確認した後、俺は眠りについた。目を覚ますと

「Fクラスは、Aクラスに『試験召喚戦争』を仕掛ける!」

そうこのクラスの代表である雄二は言った。

第4問 俺たちの勝機（前書き）

問題

以下の意味を持つことわざを答えなさい

- (1) 得意な事でも失敗してしまう事
- (2) 悪い事があつたうえに、更に悪い事が起きるたとえ

姫路瑞希の答え

- (1) 弘法も筆の誤り
- (2) 泣きつ面に蜂

教師からのコメント

正解です。他にも(1)なら「河童の川流れ」、「猿も木から落ちる」、(2)なら「踏んだり蹴ったり」や「弱り目に祟り目」などがありますね。

23

土屋康太の答え

- (1) 弘法の川流れ

教師からのコメント

シュールな光景ですね。

風見幽香の答え

- (2) 泣きつ面にマスタースパーク

吉井明久の答え

- (2) 泣きつ面蹴つたり

教師からのコメント

君達は鬼ですか？

風見幽香からのコメント
いいえ、妖怪です。

向日葵の答え

- (1) にとりの川流れ
- (2) 泣きっ面で幽香さんに遭う

教師からのコメント

言いたい事が多すぎます。

風見幽香からのコメント

葵、後でじっくりお仕置きね。

第4問 俺たちの勝機

「FクラスはAクラスに、試験召喚戦争を仕掛けようと思う」

「勝てるわけがない」

「これ以上設備が落とされるなんて嫌だ！」

「姫路さんがいれば何もいらない！」

確かにAクラスの設備は魅力だ。しかし、負ければ設備が1ランク下がる事を考えるとこの反応は仕方ない。

「そんな事はない。根拠ならあるさ」

そう言くと雄二はある一点を見つめ……

「おい、康太。畳に顔をつけて風見のスカートを覗いていないで前に出てこい」

「……………！！（ブンブン）」

「ふえっ!?!」

なあ、土屋。その能力もつと違う方向に生かせよ。で、土屋ムツリーニに説明が終わって戻ろうとした所を幽香さんが思いつきり頭を掴んで、

「ていやっ!」

「……………（バタッ）」

全力の頭突きを食らわせた。ああ、慧音さんを思い出すな。幻想郷の人里に来て初めて見た光景が頭突きだったしなあ……………

「それに、向日葵や風見幽香だっている」

あ、何故か呼ばれた。

「向日って唯一鉄人と戦って勝った伝説を持つてる噂の……………」

いや、あれ実質引き分けだったから。

「風見ってあの『文月のサディスト』と呼ば……………すみません自分チヨーシくれてました！」

どうせ幽香さんが脅したんだろうと思いつつその方向を見ると、

「……………チッ」

傘をしまいながら舌打ちする幽香さんの姿が。そんなだからDSだ

って呼ばれるのに。

「葵、何か言ったかしら？」

「イヤ、ナニモイツテナイデスヨ？」

危ない危ない。あの人（？）心でも読んでるのかってぐらいの事言ってくるから怖い。

「それにあの二人、学年主席クラスはなかったか？」

要約すると、俺：どれも大体400点台。結構安定。 幽香さん：
単科で1000点超えることもある。

ただし死んでる教科は死んでる。

「当然俺も全力を尽くす」

「坂本って、確か小学生のころは神童とか呼ばれてなかったか？」

「それじゃあ、実力はAクラスレベルが4人も居るってことかよ！
？ もしかしたらやれるんじゃないか？」

「ああ、なんかやれそうな気がしてきた！」

バーロー、神童って言っても所詮過去のものでしかない。実質3人と考えたほうが良いな。

「それに、吉井明久だっている」

シーン……………

「……………」

「……………」

「……………」

「……………」坂本、ミーティング行くぞ」

「待て、その前に宣戦布告だ」

「ちよつと！？せめてまともな紹介ぐらいしてよ！」

「「吉井、Dクラスに宣戦布告してこい」」

「無視！？…………それに、宣戦布告の使者って大体酷い目に遭うよね？」

「そんな事は「大体そうだな」」

「だったらなおさら行かな……」

その時吉井の耳元で、

「（吉井、姫路は危険を顧みない男らしい奴が好きらしいぞ？）」

そう言った途端に

「わかったよ、使者は僕がやるよ」

うん、実に単純だ。

数分後。

「ま、そうなるよな」

そこには、服（だけ）ボロボロな吉井の姿が。

（あ、そついやこいつ能力持ちだったな。『自分の受けたダメージを力にする程度の能力』が。）

「うし、ミーティングの時間だ」

そう坂本は言った。

第5問 俺と補給テストとDクラス戦

屋上にて。

「で、吉井。開戦はいつから？」

「えっと、今日の午後から開戦って伝えてきたけど」

「そうになると、昼飯食べてから即戦闘って訳ね」

「坂本、このDクラス戦はどうするつもりなんだ？」

確かにそれは気になるわね。私、葵、姫路は試験を受けてからじゃないと前線に出られないし、何より私達がない間に代表がやられちゃあ意味が無い。それに先の事を考えるとできれば私達の存在は隠しておきたい。

「ああ、今回は姫路に決めてもらおうと思う」

「わ、私ですかっ!？」

「成程、その代わりに次の戦いじゃあ俺達が暴れちゃっていいって事か？」

「ああ、構わない」

正直出れないのは不満だけど次は思いつきりできるしいや。

「よし、今回の作戦だが……」

そして、作戦会議が始まった。

午後。

「……………」

現在、テスト中。

「さあ来い!この負け犬が!」

「て、鉄人!?嫌だ!補習室は嫌だっ!」

「黙れ!捕虜は全員この戦闘が終わるまで補習室で補習だ!終戦まで何時間かかるかわからんが、たっぷりと指導してやるからな」

「た、頼む!見逃してくれ!あんな拷問耐え切れる気がしない!」

「拷問？これは立派な教育だ。補習が終わる頃には趣味が勉強、尊敬するのは二宮金治郎といった理想的な生徒に仕上げてやるう」

「だ、誰か助け」

鉄人さん？人はそれを洗脳って言うんですよ？

さらに時間は経ち……

「俺一人かよ……」

試験の終わった姫路はDクラスにばれない様に幽香さんが空飛んで運んでくれました。さて、そろそろ決着が

「連絡いたします。船越先生、船越先生。吉井明久君が体育館裏で待っています。教師と生徒の垣根を越えた、男と女の大事な話があるそうです」

つきそうだな、うん。吉井の命はともかくとして。

大体の生徒が下校する時間。

「うおおおお！！」

お、決着ついたみたいだな。多分Fクラスの勝利だろうけど。

「ま、俺はさっさと帰るとしますか」

「Bクラスの設備を壊す代わりに設備交換は無しにした？」

「ええ、そうみたいね」

うーん、設備交換をしないのは恐らくモチベーションの維持だとしても何でBの設備なんかを壊す指示をしたんだ？

「で、設備を壊す理由は分かるか？」

「知らないわよそんな事。何でも次の戦争で重要らしいけど……」
何を考えているのかますます混乱してきたなオイ。まあ、細かい事

は明日考えるか。

第6問 俺と昼飯と死を見せる弁当

「良かったらどんどん食べてくださいねっ」

女子からの手作り弁当。それを聞いて食べない男はいるだろうか？
しかし、俺たちは食べない。いや、食べられる状況で無かった。そ
う、目の前にある弁当は

「……………（ガクガク）」
人を殺しかける程度の弁当であった。

（今から数分前）

「よし、昼飯を食いに行くぞ！今日はラーメンとカツ丼と炒飯とカ
レーにすっかな」

えっと、確か文月学園だよな？そのメニューはてっきり幽々子さん
専用かと思っていたがそうじゃなかったか。

「あ、あの。皆さん……………」

「あ、姫路も一緒に学食行くか？」

「あ、いえ、えっと……………お昼なんですけど、昨日の約束で……………」
昨日の約束、昼飯を元に脳内検索にかける。

「おお、もしかや弁当かの？」

ああ、そういえばそんな事あったな。

「は、はいっ。迷惑じゃなかったらどうぞっ」

そして雄二、島田は自販機に飲み物を買いに行き、今に至るわけだ
が

「（幽香、どう思う？）」

「（少なくとも普通の弁当ではなさそうね）」

「おう、待たせたな！へえ、こりゃ旨そうじゃないか。どれどれ？
最悪と言ってもいいタイミングで登場の雄二。そして、卵焼きを口
に放り込む。

「あつ、雄二!?!」
ボタン ガシャガシャン、ガタガタガタ
ジューズの缶をぶちまけて倒れた。雄二、お前の事は(三分ぐら
いは)忘れないよ。

「さ、坂本!?!ちよつと、どうしたの!?!」

雄二が目で話しかけてくる。

「(毒を盛ったな?)」
失礼な。

「(毒じゃない、多分姫路の失敗だ。それに毒を盛るにしても一撃
で殺すぐらいのやつにしてるっての)」

「(随分と物騒だなオイ!)」

「姫路、この中に何が入ってるの?」

そう幽香さんが聞く。回答によつちや姫路が死ぬな。

「えつと、酸味がほしかったので、硫酸を……………」

とりあえず卵焼きに酸味なんてのはいらぬしその上料理に薬品
つてどういう事だよ。

「へえ…………ねえ、ちよつと話があるんだけど」

あ、この声と笑顔からすると説教1時間程度で済むな。

「で、次はどこを落とすんだ?」

「次の目標はBクラスだ」

そついやDクラスとの交渉で空調をどーたらこーたら言つてたな。

「どうしてBクラスなの?目標はBクラスなんでしょ?」

「正直言おう。どんな作戦でもうちの戦力じゃAクラスには勝てや
しない」

「成程、Bを利用して連戦に持ち込もうって訳か。そいじゃ、行っ
てくるぜ」

Bクラス前。

「俺たちFクラスはBクラスに対して試召戦争を申し込む」

「ハッ、Fクラスごときが何を言ってるんだ？ボコボコにしちまうぜ？」

「何を言ってるんだ？てめえらごとき潰すのは簡単な事だ」

そして、Fクラスに戻るうとする。

「待てよ、そう簡単に終わらせるとでも思ってるのか？」

デスヨネー。

「上等だコラ。テメエら三下ごとき束になっても怖かねえんだよ」

「そんな事、今にも言えなくしてやるよ！」

相手は大体30人。敵は前方のみ。ならこれでいいか。

「見習』とる火のマスタースパーク』」

はい、全滅。

そして何事も無くFクラスに戻った。

第7問 俺とスペカとBクラス戦（前書き）

以下の文章の（ ）に正しい言葉を入れなさい
「光は波であって、（ ）である」

姫路瑞希の答え

「粒子」

教師のコメント
よく出来ました。

向日葵、風見幽香の答え

「マスタースパーク」

教師からのコメント
そう書くと思っていました。

第7問 俺とスペカとBクラス戦

次の日。

「午後はBクラスとの試召戦争に突入する予定だが、殺る気は十分か？」

「……おおーっ！」「……」

おい、殺すなよ？間違っても殺すなよ？

今回の作戦は向こうを教室に押しこむ単純な作戦。そのためBクラスのある新校舎とFクラスのある渡り廊下戦では護衛を除く全員を投入するらしい。

キーンコーンカーンコーン

昼休み終了のチャイムが鳴る。

「よし、行って来い！目指すはシステムデスクだ！」

「サー、イエッサー！」

Bクラス戦が始まった。

「いたぞ、Bクラスだ！！」

「高橋先生を連れているぞ！！」

高橋先生って事は総合科目での勝負。こっちは相手に文系が多いつてもあつて数学の長谷川先生。この人何故か召喚範囲が広いんだよね。そうそう、前線指揮が俺、部隊長は明久と秀吉らしい。

「10人とはなめてかかって来てるな……生かして帰すな！前線部隊突撃！」

Bクラス 野中長男 総合1943点

VS

Fクラス 近藤吉宗 総合764点

Bクラス 金田一祐子 数学159点

VS

Fクラス 武藤啓太 数学69点

やっぱり格が違うな。へ？無駄に犠牲になった？いや、あれは必要な犠牲のはず。……多分。

「前線部隊は一旦引け！俺が援護する！
試獣^{サモン}召喚！」

俺の召喚獣は動きやすく改造された学ランに打ち上げ花火の筒（片手で支えられるほど小型）

Fクラス 向日葵 数学421点

VS

Bクラス 野中長男 数学192点

Bクラス 金田一祐子 数学159点

「なつ！？」

そりゃそうだな。Aクラス並の点数なんだから。

「……けど近づけば何も出来ないでしょ！」

成程。これを砲撃用として読んだか。けどな、

「おらっ！」

こいつは殴るために存在するんだよ！

「……ええええええっ！？」

「いや、これって……普通だろ？」

「……どこが普通だ！」「」「」

この瞬間だけ、FクラスとBクラスの息があった気がした。

Bクラス 金田一祐子 数学0点

余談だが、今の一撃で相手の召喚獣は天に召されていた。

「お、遅れ、まし、た……ごめ、んな、さい……」

「まだ一人しか倒してないの？それとも……私の為に残しておいて

くれたの？」

そこにメイン火力の姫路と幽香さんが到着。これで勝つる！

「来たぞ、姫路瑞希だ！」

「全員でかかれ！」

「悪いな、姫路に幽香。早速向かってもらえるか？」

「は、はいっ。行つて、きます」

「はいはい、サモン試獣召喚つと」

Fクラス 向日葵 数学421点

Fクラス 風見幽香 数学502点

Fクラス 姫路瑞希 数学412点

VS

Bクラス 岩下律子 数学189点

Bクラス 菊入真由美 数学151点

Bクラス その他7名 数学平均181点

「嘘でしょ！？何であんなのがFクラスにいるのよ！」

「姫路、全力でかつ飛ばせ！」

「は、はいっ！」

姫路の召喚獣が腕輪のついた左手を前に出すと、腕輪から光線が放たれる。

「じゃあ私も行きますか！げんそつしきけつたつりりゅう幻想式決闘流儀、携帯獣携帯獣『種乱射銃』！
そう言うと幽香さんの足元から花が出てくる。そして、一斉に種を
発射した。

……なあ、これどう考えてもポ モンのタネマシンガンだよな。

「暴れ足りねえなあ！写符『鏡写し』」

こっちは召喚獣本体の能力で撃つ。ただ一回200点なんだよなあ

……

まあまだ生きてる召喚獣もいることだし、

「姫路、幽香！」

「ええ（はいつ）！」

姫路は左手を前に、幽香さんは持つてる傘を前に、俺は花火の筒を構える。どうでもいいけどよく傘まで再現したよな。

「『協力』トリオ・ザ・スパーク』！！！！」

前方を埋め尽くす巨大な光線。つてかこれオーバーキルだよな。

Fクラス 向日葵 数学21点

Fクラス 風見幽香 数学300点

Fクラス 姫路瑞希 数学312点

V S

Bクラス 岩下律子 数学0点

Bクラス 菊入真由美 数学0点

Bクラス その他7名 数学0点

「今だ！Bクラスに攻め込め！」

「うおおおおっ！」

まあ、こんなもんだな。

第8問 私と人質と彼の能力(前書き)

やっと葵が能力使用。正直このぐらいしか使いどころ無いような……
では、第8問どうぞ。

第8問 私と人質と彼の能力

「こいつはひでえな……」

Fクラスに戻った俺の目の前には穴だらけの卓袱台、へし折られたシャーペンに消しゴムが。

「酷いね。これじゃ補給がままならない」

「うむ。地味じゃが点数に影響の出る嫌がらせじゃな」

「それにしてもやる事が地味ね。やるなら教室壊すぐらい」

「……それはやりすぎだ（じゃ）」「」「」

いや、実際この人やりかねないけどね。

「あまり気にするな。修復に時間はかかるが、作戦に大きな支障はない」

そこに、代表である雄二が割り込んでくる。

「雄二、わざわざ教室を空にするとはお前らしくないな」

「協定を結びたいと言ってきてな。それで教室を空にしていた」

「協定？」

「ああ。4時までに決着がつかない場合、戦況をそのままにして続きは明日午前9時に持ち越し。その間は試召戦争に関わる一切の行為を禁止するつてな」

「それ、承諾したの？」

「そうだ」

何か妙だな。あの卑怯で評判の根本がこれだけで終わらせるはずは無いと思うが気のせいかな？

「大変だ、坂本！」

「ん、どうしたんだ？」

「島田が人質に取られた！おかげであと二人なのに攻めあぐねている状況だ」

だよなあ！終わるわけ無いと思ったよ。

「そうか……葵、風見！島田を頼んだ！」

「了解。さて、幽香、どうする?」

「ええ、ムツツリーニ、盗聴器と受信機を2セットお願いできる?」

「……すぐに用意する」

「《こちら葵。現在Aクラス教室内だ》」

「《そう。向こうはAクラスの近いほうの入り口だけどどうする?」

《》

「《どうにか後ろまでにできないか?》」

「《……頑張る》」

「そこで止まれ! それ以上近寄るなら召喚獣に止めを刺して、この女を補習室送りにしてやるぞ!」

現在、Bクラス前。

「(風見さん、どうする?)」

「(私に任せなさい)」

そして、前線へと出る。

「Bクラスの皆さん、ごきげんよう。そして　ウチのクラスのメ

ンバーを人質にするとは、いい度胸ねえ?」

「……っ!」

ほんのちよつとだけ妖力を表に出すだけで退いてくれるし、楽な物ね。そしてこの距離なら、

「《葵!》」

「《了解!》」

Aクラスの扉が勢いよく開く。

「だ、誰」

その瞬間、葵の手が相手の肩へと触れてわずかに光を発した。

「お、おい!どういう事だよ!?!」

「全軍……突撃いつ！」

それと同時に島田の召喚獣を捕らえていたうちの片方が離れる。これなら行ける！

「サモン試獣召喚！」

Fクラス 風見幽香 数学300点

VS

Bクラス 鈴木二郎 数学31点

Bクラス 吉田卓夫 数学18点

「……まったく話にならないわね」

躊躇無く突きをかまし、あの二人は補習室行き。行く直前に葵が能力解除してたし大丈夫ね。

その後、私と葵は補充テストを受けて4時となった。

第?問 一つの難題(前書き)

問 以下の問いに答えなさい。

「ベンゼンの化学式を答えなさい」

姫路瑞希の答え

C6H6

教師からのコメント

簡単でしたね。

向日葵の答え

C6H6 (いい感じの答えが思いつかなかった)

教師からのコメント

真面目にやってください。

風見幽香の答え

知らない。

教師からのコメント

わざわざ書かなくても良いです。

土屋康太からの答え

ベン+ゼン=ベンゼン

教師のコメント

君は化学をなめていますか。

吉井明久の答え

B - E - N - Z - E - N

教師からのコメント

後で土屋君と一緒に職員室に来るように。

第？問 一つの難題

現在、午後4時30分。協定通り休戦中である。

「さてと、戦況はどうだ？」

「計画通り向こうの教室前まで攻め込んだが、こちらの被害も少ないな」

「しかし、どうした物だ………？」

そう、あの協定はこつち????????に有利すぎるのだ。恐らく何かを仕掛けているはずだが……考えすぎか？

「葵に風見、Cクラスに行くぞ」

「急にどうしたんだ？雄二」

「Cクラスに怪しい動きがあった。念のため不可侵条約を結びに行くところだ」

「成程、俺たちはその護衛って訳か」

そして、姫路、康太、雄二、明久、幽香と共にCクラスに。

「Fクラス代表の坂本雄二だ。このクラスの代表は？」

「私だけど、何か用かしら？」

確かCの代表はヒステリーな小山だっけ。

「Fクラス代表としてクラス間交渉に来た。時間はあるか？」

「クラス間交渉？ふうん……」

「ああ。不可侵条約を結びたい」

「不可侵条約ねえ………どうしようかしら、根元君？」

………っ！まずい！

「代表！急いで撤退しろ！」

「逃がすな！坂本を討ち取れ！」

よりにもよって向こうの連れているのは長谷川先生、すなわちフィールドは数学。いくら回復したとはいえせいぜい半分程度。勝つのは難しい。

「（幽香、点数はどうだ？）」

「（大体アンタと同じくらいよ）」

くっ、こんな時に腕輪が使えないってのは辛いな。せめてもう一人いれば……

「はあ、ふう……」

流石に姫路には全力疾走を続けるのはきつかったか。

「数学に自身のある奴以外は即座にFクラスに行け！明久、お前は背負ってでも姫路を運んで行け！」

「姫路さん、ごめん！」

「ふえっ！？」

……まさか本当にやるとは思わなかったぞ明久。まあいい、残っているのは島田に幽香と俺か。

「……」 試獣召喚サモン！「……」

Fクラス 島田美波 数学171点

Fクラス 風見幽香 数学176点

Fクラス 向日葵 数学221点

VS

Bクラス モブ5人 数学平均189点

人数も何も不利か。こうなりややるしかねえ！

「島田に幽香、後を頼む！」

出来れば明日までとっておきたかったスペルだがこの状況じゃ仕方ないな。

「とある商人は言った。『この矛はどんな物も貫ける』と、またとある場所では『この盾はどんな物も防ぐことが出来る』と。そこで一人が言った、『その矛でその盾を突いたらどうなるのか』これが『矛盾』の由来 難題『全てを斬る剣と全てを防ぐ盾』」

「たかが装備が変わっただけだ！行くぞ！」

装備が変わっただけ？笑わせる。

「おらあ！」

全力で斬りつけるが、相手もガードする。しかし

ザシュツ！

Bクラス モブA 数学0点

「言つたる？この剣は全てを斬るって」

もつとも、このスペル60秒しか持たないんだけどな。

「くっ……………」

遠距離から銃での攻撃を仕掛ける召喚獣。それを見て剣を消し目の前で手を振る。するとその軌道上に壁が現れる。

「甘いっ！」

踏み込んで躊躇無く切り裂く。

「葵、こつちも終わったわよ」

「こつちもよ」

「何も被害は無し、って所か。戻るぞ」

第？問 一つの難題（後書き）

スペルカード紹介

難題『全てを斬る剣と全てを防ぐ盾』

葵のスペルカード。宣言すると、剣が具現化。その剣はあらゆる防御を無視して相手に致命傷を負わせる。目の前で手を左右に振ると軌道に合わせて盾が出現。その盾はマスタースパークすら完全に防ぐ。

ただし、剣のある状態で盾を出そうとすると強制的にスペルブレイク（スペルの効果終了）となる。ぶつちやけ相手が攻めに特化すると弱いスペル。

今更ながらスペルカードについて。

（召喚獣式スペルカードルール）

- 一、戦争開始30分前までにどのスペルを使うか学園長に申告すること。申告の無い場合は最後に申告した組み合わせとする。
- 二、スペルブレイクについては以下の場合となった時。
 - 二・壹 スペルカードの切り替え時、前に使っていたスペル
 - 二・貳 スペル発動時から相手の攻撃により50点以上減らされる
 - 二・参 スペルカード発動から一定時間の経過
 - 三、壹の場合、通常スペルにおける参の場合、その日は該当するスペルを使用不可能とする。
 - 四、貳の場合、もしくは耐久スペルか武器変化のスペル時において参の場合となった時、その戦争中は該当するスペルの使用不可。
 - 五、その他は幻想境のスペルカードルールに準拠する。

第10問 処刑は汚き根本の為に(前書き)

根本フルボッコ回。

第10問 処刑は汚き根本の為に

V S Bクラス戦2日目

「今から昨日言った作戦を実行する」

「作戦つて、Cクラス対策のやつか？」

現在、8時30分。戦争開始には少し早い時間だ。

「ああ、その為に秀吉にこいつを着てもらおう」

そう言つて雄二は女子制服を取り出す。どこから仕入れたんだよそんな物。

「それは別に構わんが、ワシが女装してどうするんじゃ？」

秀吉、そこで断らないから女子だと勘違いされるんだと思うぞ。

「要するに木下（姉）になりきつてCクラスの矛先をAクラスに向けさせようつて事だろ？」

「そついう事だ」

少年（？） 罵倒中……（詳しくは原作一巻）

「Fクラスなんて相手にしてられないわ！ Aクラス戦の準備を始めるわよ！」

恐るべし、秀吉。つてもう55分か。そろそろ開戦だな。

Bクラス前。

「ドアと壁をうまく使つて フィールド 戦線の拡大を阻止して！勝負は極力単教科、補充も念入りに！」

「『サー、イエスサー！』」

代表の作戦だと『教室内に敵を閉じ込める』つて作戦。今の所は順調だけど……

「……………」

うちのクラスの切り札の一角である姫路の様子がおかしい。

「（葵、姫路の様子がおかしい気がするんだけど……………」

「（やっぱりか。俺もおかしいと思ってた）」

とは言ってもその原因が見つからないことには解決しないし……………辛い状況ね。

「右側出入口口、教科が現国に変更されました！」

「数学教師はどうした！」

「Bクラス内に拉致された模様！」

くっ……………現代国語じゃ私の点数は無いに等しい。これはなおさらきつくなつたわね。

「姫路、左側の援護を頼む！」

「は、はいっ！……………あっ……………！」

動こうとした姫路が急に動きを止める。その先には根本の持っている謎の手紙が。

「成程ねえ……………葵？」

「ああ、あの野郎」

「……………絶対、ぶち殺す！……………」

つて、あれ？

「吉井、まさかお前もか？」

「うん……………姫路さんのためにも、絶対奪い返す！」

「じゃあ……………教科が教科だし、私は別行動でいいかしら？」

「ああ、構わない」

私の出来る役目とすれば、本来の作戦、葵たちの攻撃方向以外からの第3のルートからの攻撃。

「全軍一時撤退！」

「逃がすな！」

「させやしねえよ。Fクラス向日葵、吉井明久が前のBクラス全員

に戦いを申し込む！」

「……」 試獣召喚サモン！」「……」

Fクラス 向日葵 現代国語 460点

Fクラス 吉井明久 現代国語 71点

VS

Bクラス モブ×6 現代国語 平均132点

「憑依、対象は吉井明久！」

「まずはザコの吉井から殺るぞ！」

おいおい、仮に憑依しなくてもあいつはかなりの操作を誇る。仕留めるのは困難。しかも俺の腕輪で操作を犠牲にする代わり

Fクラス 吉井明久(向日葵) 現代国語 410点

VS

Bクラス モブ×6 現代国語 0点

俺の操作、俺の点数で戦うことになるんだよ！

「なっ!?!」

「吉井、突撃だ！」

ゴォッ！

その瞬間目の前にレーザーが。こんなのを出せる奴は……

「流石ね、葵」

幽香しかいねえよな。

「くっ、近衛部隊！」

「葵、ここは私と吉井で引き止めるから先に行つて！」

「上等！さあて、根本。楽しいパーティー戦いの時間だア！」

「くっ……」 試獣召喚サモン！」

Fクラス 向日葵 現代国語 410点

VS

Bクラス代表 根本恭二 現代国語 191点

さて、ここで俺の能力の補足だ。俺の『精神を入れ替える程度の能力』ってのは元に戻った時

「蘇れ、悪魔の剣よ 記憶『レーヴァテイン』」
条件はあるが、スペルを一枚コピーできる。

「くっ……!!」

「あばよ、卑怯者」

俺の剣が根本の召喚獣を一閃し、

Fクラス 向日葵 現代国語 210点

VS

Bクラス代表 根本恭二 現代国語 0点

Bクラス戦に決着がついた。

戦後対談。

「さて、それじゃ嬉し恥ずかし戦後対談と行くか。負け組代表？」

「……………」

おお、さっきまでの強気な態度が嘘みたいね。

「本来なら設備を明け渡して貰い、お前らには素敵なちゃぶ台をプレゼントする所だが、特別に免除してやらんでもない」

目標はAクラスだし、こんな所正直必要ない。

「けど、こつちの条件を飲んでもらえればだけどな」

「………… 条件は何だ？」

「条件？ それはお前だよ、負け組代表さん」

「俺、だと？」

「ああ、お前には散々好き勝手やって貰ったし、正直去年から目ざわりだったんだよな」

そのコメントにBクラスからのフォローは皆無。根本の人望がよく分かるわね。

「そこでだ。Aクラスに行って、試召戦争の準備が出来てると宣言して来い。そうすれば今回は設備については見逃してやつても良い。ただし、宣戦布告はするな。あくまで戦争の意思と準備があるとだけ伝えるんだ」

「……………それだけでいいのか？」
根本クン？それだけなわけ無いでしょ？
「ええ、これを着ていったらね」
そう言つて懐から女装セットを出す。こんな奴に使うのは勿体無いけどね。（本来は葵用）
「ば、バカな事を言うな！ この俺が、そんなふざけた事を！」
「Bクラス生徒全員で、必ず実行させよう！」
「任せて！ 必ずやらせるから！」
「それだけで教室を守るなら、やらない手はないな！」
……………根本クン？一体何をやってきたのかな？
「代表、その前にコイツを借りて行っていいかしら？」
「ああ、構わない」
「幽香、俺も一緒に行くぞ」

少女少女処刑中……………

「すつきりしたわね はい、代表さん？」
渾身の笑顔で根本を投げ渡す幽香。
「風見、何で所々黒こげなんだ？」
「え？ちよつとお話しただけよ？」
マスパ10発撃つたのにどこがちよつとなのか問い詰めたいくらいだよ。……………まあ、俺が言えないけどな。（記憶『レーヴァテイン』で4〜50回ぐらい斬った）
「そうか。じゃあ、さつさと着替えさせるぞ」
無視！？まさかの無視！？

「さて、今回はアイツも頑張ったし、……………ってかそろそろあの二人には気づいて欲しいけどな」

そう俺は眩いた。

第10問 処刑は汚き根本の為に（後書き）

スペルカード紹介

記憶『レーヴァテイン』

とある悪魔の妹の弱体化バージョン。弾幕は出ないものの、威力に
関しては

難題『全てを斬る剣と全てを防ぐ盾』の剣と同等クラスの威力を誇
る。けっこう重いらしく、両手で持つのが精一杯らしい。

次回は告白イベント。（のはず）

第11問 彼まで届け、私の想い（前書き）

今更ながら感想をくれた皆さん、ありがとうございます！

今回は作者の力不足を感じた回でした……もっと上手く書けるようにになりたい。

それでは、どうぞ。

第11問 彼まで届け、私の思い

「落とし物は持ち主に、つと……」

葵から預かった根本君の制服の中にあつた封筒を手に持ち、僕は今Fクラスにいる。ちなみにあの制服は焼却炉で燃やした。別に元々焦げてたし変わらないよね？

そしてこの封筒を姫路さんの鞆に入れれば作戦終了よ

「吉井君！」

「ふえっ！？……ああ、姫路さんかあ……」

「あ、あのっ、その手紙ですけど……」

「あ、うん！今すぐ姫路さんに返……」

「返す必要はありませんよ？だって、その手紙は既に届いてるんですから……」

「へ？」

だって、この手紙って雄二のためのものじゃ……そう思っていると姫路さんは顔を真っ赤にして頭を勢いよく頭を下げながら叫んだ。

「吉井君、ずっと好きでした！私と付き合ってください！」

「……………え？」

「吉井君…………？」

「ぼ、僕も、姫路さんの事が……大好きです！！」

一方、教室の外では……

「上手くいったみたいね、葵？」

「ああ、俺が手を貸す必要も無かつたみたいだしな」

「それじゃ、帰りましょ？」

「そつだな……うおっ！？」

戻ろうとした最中、何故か近くにおいてあつたバナナの皮で転ぶ俺。

「きゃっ！」

で、その流れで幽香に倒れ掛かる。

「お、風見に葵。こんな所で何やって」

そこに雄二がやってくる。まあ、状況の整理だ。俺は今、勢いで倒れた幽香の上につつ伏せで倒れている訳だ。他人から見れば、

「……さて、帰るか」

「せめて話を聞いてくれええっ!!」

俺が押し倒してるようにしか見えないよな。その後、30分かけて話をした結果、何とか誤解は解けた。こんな事で異端何ちゃらに追われるのは御免だしな。そんな事があって、

「……………」

「あの……怒ってます？」

非常に気まずい事になってるんだ。

「……目を食いしばって歯を閉じなさい」

「幽香さん、それって逆「いいから早く！」ハイ……」

あ、こりゃ伝家の宝刀の右ストレートだな。そう思いながら目を閉じる。

「……………」

来るであろう衝撃に備えて身を固める。すると不意に俺の頬に何か柔らかい物が押し付けられた。

「はい、もう開けて良いわよ」

「へ……？幽香、今のって」

「さあーで、ご飯の準備でもしないとね！」

まるで何も無かったかのように振舞う幽香。一体なんだったんだ？

第11問 彼まで届け、私の想い（後書き）

最後の最後に幽香さんデレる。それでも気づかない葵。
流石鈍感な格が違った。

第12問 最後(?)の作戦会議

Bクラス戦の終了から2日後。

「まずは皆に例を言いたい。周りの連中に不可能だと言われていたにも関わらずここまでこれたのは、他でもない皆の協力があったの事だ。感謝している」

「お前らしくないな。雄二」

「ああ、自分でもそう思う。だが、これは偽らざる俺の気持ちだ」

「けどまだ一番の問題であるAクラス戦が残ってるのよ?」

「ああ、残るAクラス戦だが、これは一騎打ちで決着を付けたいと考えている」

一騎打ちっていうと代表同士が一对一で戦うってやつだったっけか? だとしても勝機はほぼ無いに等しいはずだし、何かしら策はあるはず。

「ふうん、で、誰が戦うのよ?」

「当然、俺と翔子だ」

「バカの雄二が勝てる訳……」

シュツ (雄二がカッターを投げる音)

ボンッ! (カッターと弾がぶつかる音)

パラパラ (カッターが粉々になる音)

「チツ……」

「そんな事してる暇があったら説明したらどうだ?」

代表説明中……

要するに満点ありで向こうは『大化の改新』が出たら間違えるから勝てるらしいが逆を言えばたとえ出てもこちらが満点を取らなければ勝てない。……幽香に言っただけで勉強させるよう言っとくか。そんな訳で今、Aクラス前にいる。

「一騎打ち？」

「ああ、俺たちFクラスは、Aクラスに一騎打ちを申し込む」

「断るわ。その勝負、私達にリスクしかないじゃない」

ああ、そういえば一騎打ちに関しては断れるんだったな。

「断つてもいいが、その時はBクラスが攻め込んでくるぜ？わざわざ2回も試召戦争をやるよりはこっちにのつた方が得策だろ？」

「……なら、一騎打ちを7回やるってことでどう？」

うーむ、こっちの勝てる要素は姫路、俺、幽香、ムッツリーニ（後の二人は教科限定）と一応明久、雄二か。流石にギリだと不安だな。「そんな7回なんてめんどくさい事するより、5回でいいんじゃないか？」

「駄目よ。7回じゃないとこっちの勝てる要素が無いからね」

どうにかして5本勝負に持ち込まないと……あ。リスクはあるが一応案は思いついたな。

「なら俺と風見は出ないから5本勝負でどうだ？」

「うーん……その言葉を鵜呑みには出来ないし……」

「……受けてもいい」

「うおっ！？」

ああ、向ここの代表の霧島翔子か。

「……その代わり、一つ条件」

「何だ？」

「……負けたほうは勝ったほうの言う事を何でも一つ聞く」

「ああ、上等だ。じゃあ細かい所を詰めるとするか。後でこんなこと聞いてなかったとか言わないようにな」

「それはこっちの台詞よ」

で、結果的に。

・互いのクラスから代表者を5人選んでの代表戦とする。

・Fクラスは代表者に風見幽香、向日葵を入れることを禁止する。

なお、元々の代表者が用件等により出場が不可能となった場合はこ

の限りではない。

- ・教科選択権はFクラス3回、Aクラス2回。
- ・以上の事に反した場合、違反したクラスの敗北とする。

「さて、こんな物でいいだろ？」

「……構わない」

「すみません高橋主任、これを預かってもらえますか？」

「了解しました」

「これでもう書き換えは出来ないって訳だ。2時間後にまた会おう
そして、Fクラスへと戻っていった。

「幽香、雄二に日本史を叩き込めるか？」

「この2時間でね……分かった、頑張ってみるわ」

「ああ、頼んだ」

「それと葵、」

「何だ？」

「あんな協定結んじゃって……勝つ見込みはあるんでしょうね？」

「ああ、向こう……いや、俺以外気づいていないが、あの
協定には隙がある」

そして、Aクラス対Fクラスの幕が上がる。

第12問 最後(?)の作戦会議(後書き)

次回、Aクラス戦。

第13問 絶対勝利の札〈final spell attack〉

2時間後……

「では、両名とも準備は良いですか？」

「ああ」

「……問題ない」

Fクラスからは明久、姫路、秀吉、ムッツリーニ、雄二の5人が出ることに。

「それでは1人目の方、どうぞ」

「私が出ます。科目は物理でお願いします」

Aクラスからは佐藤美穂さん。そしてこっちからは

「明久、行ってこい」

「え！？僕！？」

「ああ、お前はここで出さなきゃ作戦に支障が生じる」

「ふう……。やれやれ、僕に本気を出させてこと？」

「そうそう、それでくだらない事言ったら潰すからね？」

「サー、イエスサー！」

ああ、幽香の威力だと明久の能力でも喰らうんだったな。

(明久の能力は一定の上限を超えると発動しなくなる。)

「それでは、始めて下さい」

「^{サモン}試獣召喚！」

Aクラス 佐藤美穂 物理389点

VS

Fクラス 吉井明久 物理 62点

5分ほど粘ったものの結局負ける。けど明久を使った理由は勝った

めじゃない。

「おいおい……こんなに苦戦するか？」

「い、いや、今のは偶然じゃないか？」

「そうだと思いたい……」

そう、目的は相手の動揺。同時にそこに集中させる事で協定の穴を気づかせなくする作戦。

「では、二人目の方、どうぞ」

「じゃ、アタシがいくよっ」

Aクラスからは木下（姉）。

「ワシがやるっ」

そして、Fクラスからは秀吉。

「ところでさ、秀吉」

「なんじゃ？姉上」

「Cクラスの小山さんって知ってる？」

「はて、誰じゃ？」

うん、作戦通り。

「じゃあいいや。その代わりに、ちょっとこっちに来てくれる？」

「うん？ワシを廊下に連れ出してどうするんじゃ姉上？」

ごめん、秀吉。後でプリンでも奢るから許してくれ。

「姉上、勝負は どうしてワシの腕を掴む？」

「アンタ、Cクラスで何してくれたのかしら？どうしてアタシがCクラスの人達を豚呼ばわりしていることになっているのかなあ？」

「はっはっは。それはじゃな、姉上の本性をワシなりに推測して

あ、姉上っ！ちがっ……！その関節はそっちには曲がらなっ……

「！

ガラガラ

木下（姉）が戻ってくる。

「秀吉は急用ができたから帰るってさ。代わりの人を出してくれる

？」

プリンをパフェにしないと許してもらえそうに無いな。

「なら、秀吉が急に出れなくなっただし、私が出ても問題ないよね？科目は古典でお願いします」

「……っ！しまった……！」

この条約の一つ目の穴、それは代表の代理の場合は例外であること。向こうは多分『そんな事あるはず無い』と思っただろうが、こっちはそれを見越して秀吉を入れたんだ。……もっとも、秀吉が危険な状態にあるが。

「それでは、始めて下さい」

「『試獣召喚！』」

Aクラス 木下優子 古典328点

「残念ね、古典は私も得意なのよ」

「……葵、寝ていい？」

「せめて倒してから寝てくださいよ……」

「フン、あまりにも点数が高いから怖気づいたの？」

「何を言ってるの？恐怖を覚えるのは

Aクラス 木下優子 古典328点

VS

Fクラス 風見幽香 古典1011点

貴女の方よ」

「……何いいいつ！？」

「信じられません……！」

その点数にFクラス、Aクラスは勿論、高橋主任すら驚いている。

……相変わらず古典じゃ点数おかしいな。

「せめてスペルで苦しまずに葬ってあげる……幻想式決闘流儀、
『幻想に咲く花』」

まず適当な2点から十字にレーザーが出る。そして、
「くっ……あの隙間を避けるのもつらいわね……」
その適当な2点を中心に円状に2列弾が発射される。

30秒後……

「避け切れな……きゃああっ！」

まあ被弾した瞬間レーザー 円状にばら撒かれる弾 レーザー ……
……と半永久的に続くわけだ。

Aクラス 木下優子 古典0点

VS

Fクラス 風見幽香 古典889点

「勝者、Fクラス風見幽香」

これで1対1か。

スペルカード紹介

『幻想に咲く花』

風見幽香のラストスペル。ランダムに2点が選ばれ、そこから十字状にレーザーが放たれた後、選ばれた2点から円状に弾が放たれる。10秒経過ごとに選ばれる点が1箇所ずつ増え、レーザーと弾の発射間隔も短くなる。

本編にも書いてある通り、一度被弾すると無敵が無い限り抜け出せない。そのため召喚獣バトルでは一回の試召戦争につき1度のみ使用、被弾から10秒後に強制解除となるが、それでも400点はダメージが入る。

上位スペルに『幻想世界の花畑』が存在する。

第14問 隠された効果(ちから) (前書き)

ほんのちよつと遅れた3回戦になります。

第14問 隠された効果(ちから)

「では、3人目の方どうぞ」

こつちからはムツツリーニ、向こうはショートカットでボーイッシュな女の子が出るみたいだ。

「教科は何にしますか？」

「……………保健体育、形式は代表者以外を一人選んでのタッグマッチ」

「しまった……………！」

あ、もう気づいたか。向こうの代表。

「まあ向こうも気づいちゃった事だし、Fクラスからは俺が出るぜ？」

あの条約のもう一つの穴、それはあくまで 代表者として出てはいけないという事。

今回の場合、俺は『代表者』としてではなく、あくまで『パートナ―』としての出場。結局あれは出場を禁止しているようで全くしてないって訳だ。

「ならAクラスからは私が出ます！」

その声の元は、

「早苗……………！」

「久しぶりですね、葵さん」

もう突っ込まない。何でここにいるのかとか言わないから。

「悪いけど勝たせてもらうぜ！ 試獣召喚！」

「こつちだって負けられないんです！ 試獣召喚！」

「では、始めて「うおおおおつ！」「くだ……………さい……………」

向こうの武器は……………弾幕！？畜生、最高に不利な相手じゃねえか！

「それじゃ、バイバイ。ムツツリーニ君」

って向こうもやばいけど大丈夫なのか！？

「問題ない……………《加速》」

ムツツリー二の召喚獣がかるうじて見える速度で加速し、斬りつける。まず一人倒れる。

Fクラス 土屋康太 保健体育498点
Fクラス 向日葵 保健体育461点

V S

Aクラス 工藤愛子 保健体育246点
Aクラス 東風谷早苗 保健体育311点

てなかった。

「確かに心臓のあたりを狙ったはず……」

よく見ると、ムツツリーの召喚獣に焦げた跡があった。

「さっきのお返しですよ、葵さん」

「……やっぱりな」

おそらく加速の発動直前、もしくは加速中に弾幕を当てて僅かに軌道を「考えてる暇はないですよっ！」危なっ！けど、点数の減りからして一発の威力はあまりないはず。最悪強引に突っ切っていけば

「くっ……！（ピラッ）」

「卑怯なっ……！（ブシャアアッ）」

……もう何も言えない。

「仕方ねえ……憑依、対象は土屋康太」

Fクラス 向日葵（土屋康太） 保健体育401点

V S

Aクラス 工藤愛子 保健体育246点
Aクラス 東風谷早苗 保健体育311点

「工藤さんは前線で攻撃してください！私は後ろから援護します！切り替わり早えーじゃねえかオイ。」

「やあっ！」

「つと……」

「そこです！」

「うおっ!？」

現在、大ピンチ。あの動きからしてムツツリの腕輪の弱点の『攻撃中の使用不可』を理解してるはず。抜け出す策はあるが、奇策である以上、チャンスは一度きり。

「おらあっ!」

「おっと……」

早苗との距離は約5メートル。一か八か

勝負!

「うりゃあっ!」

「甘いよっ!」

こっちの小太刀での攻撃にあわせて腕輪の効果で電撃を付加した斧を当てに来る。けど、本命はこっちじゃねえ!

「キャンセルブースト
打消加速」

加速のすれ違いざまに攻撃をヒットさせる。

「くっ……なんで止まらないんですか!？」

例え弾幕を濃くして攻撃を当てようと、この腕輪は攻撃を無視してただ加速するのみ。勢いのまま召喚獣の攻撃が早苗の召喚獣に直撃し

Fクラス 向日葵（土屋康太） 保健体育137点

VS

Aクラス 工藤愛子 保健体育0点

Aクラス 東風谷早苗 保健体育0点

勝負は決した。

「何で……攻撃中は使えなかったはず……!」

「早苗、確かにそれはムツツリー二の腕輪では合っていたぞ。けど、俺が憑依したからといって同じとは限らないだろ?」

「……真逆でしたか」

「ああ、憑依腕輪とでも言ったほうがいいのか?俺の腕輪は変化する、全く違うものにも、性質が変わるものにも……な」

「そうでしたか……次は負けませんよ」

「次来たとしても勝ってやるさ」

第14問 隠された効果（ちから）（後書き）

憑依腕輪について

- ・ 葵の腕輪使用時に400点以上残っている（実質450点以上で腕輪を発動しなければならない）
 - ・ 憑依先が腕輪を持っている
- この条件を満たしていれば発動可能。

キャンセルブースト
打消加速

ムツツリー二に憑依時使用可能。

攻撃時のみの発動だが、《加速》よりも長距離の加速が可能。

第15問 普通って何だっけ？（by葵）

「これで2対1、Fクラスのリードです。4人目の方、どうぞ」

「あ、は、はいつ、私です」

Fクラスからは切り札の姫路が、

「それなら僕が相手しよう」

向こうからは学年次席である久保が出てくる。

「ここが一番の心配所だな」

そう雄二が言うのには理由がある。いくら振り分け試験を俺、幽香、姫路がリタイアして学年次席とはいえ、お互いの差はほぼ存在せず、あっても20点程度。姫路の調子次第では負けもありうるAクラス要注意人物の一人だ。

「では、科目はどうしますか？」

「総合科目でお願いします」

こっちが選択権2回使用＋最後の作戦用の選択権1回でこっちはもう選べない。

「総合科目か……まずいな」

総合科目はお互いの学年順位の差が直接出てくる科目である以上、向こうも相当な自信を持っているはず。

「それでは、始めてください」

お互いの召喚獣が呼び出される。

Aクラス 久保利光 総合科目4001点

VS

Fクラス 姫路瑞希 総合科目4503点

「ま、マジか!？」

「いつの間にこんな実力を!？」

「この点数、霧島翔子に匹敵するぞ……!」

Aクラスから驚きの声上がる。点数差500点は総合科目では遙かに大きいっ……!」

「ぐつ……！ 姫路さん、どうやってそんなに強くなったんだ？」

「……私、このクラスのみんなが好きなんです。人の為に一生懸命な皆の居る、Fクラスが」

「Fクラスが好き？」

「はい。だから、頑張れるんです」

会話が終わると同時に攻撃を仕掛ける姫路。

「よつと……」

それを何事も無く……ってちょっと待て。いくら姫路が連戦で疲れ
てるとはいえ、回避はそう簡単ではないはず。こりや何か一波乱あ
るかもしれないな。

数分後。

Aクラス 久保利光 総合科目2831点

VS

Fクラス 姫路瑞希 総合科目3029点

ほぼ互角の戦い。いや、差が縮まってきている以上姫路が不利つて
所か。

「やあつ！」

「そこだつ！」

こりやまずいな。今のはクリティカルヒット 1000点は削れ
た可能性はある。

Fクラス 姫路瑞希 総合科目1598点

逆転されたか。それにしてもあの動き、まるでそう動くのが分かっ
ていたような動き まさか。

「お前、まさか」

「気づいたみたいだね。僕の能力は『5秒先までを見る程度の能力』
だよ」

やっぱり能力持ち……って、この文月学園人多すぎないか？

「さて、そろそろ終わらせようか……」
《高速決闘》
「
スピードバトル
周囲に結界らしきものが張られる。」

Aクラス 久保利光 総合科目2364点

VS

Fクラス 姫路瑞希 総合科目1312点

なるほど、あの中にいる間は断続的に点数が減っていくのか。

「くっ……まだです！」

Aクラス 久保利光 総合科目1746点

VS

Fクラス 姫路瑞希 総合科目1011点

恐らく点の減り方からして持って後10秒。

「《熱線》！」

おお、腕輪を 後ろ！？

「その加速も見切った！」

読まれてた！？いや、あの能力があるのは姫路も分かってたはず。

「今です！」

成程、前に放つことで攻撃と同時に止まるって事か。

「っ……！」

「やあああっ！」

後ろを取った！これはもう時間との勝負となるが……

「いけえええっ！姫路いつ！」

姫路の剣が久保の召喚獣に直撃すると同時に、久保の剣も姫路の召

喚獣に突き刺さる。

Aクラス 久保利光 総合科目0点

VS

Fクラス 姫路瑞希 総合科目0点

「お互いが同時に0点となったため、引き分けとします」

決着のときは、刻一刻と近づいていた。

第15問 普通って何だっけ？（b y 葵）（後書き）

腕輪：高速決闘
スピードバトル

自動的に一番近くにいる相手を選び、自分と相手の距離を半径とした円状の結界を張る。その中にいる間は毎秒10点（総合科目では100点）つつ減っていく。腕輪発動時の点数消費はない。

能力説明：5秒先をまでを見る程度の能力
その名の通り、使った瞬間から5秒先までが見える。ただし、使用してから1分経たないと再び使用できない。

第16問 戦闘終了!……なのか?(前書き)

問題 次の()に正しい年号を記入しなさい。

()年 キリスト教伝来

霧島翔子の答え

1549年

教師のコメント

正解です。特にコメントはありません。

坂本雄二の答え

雪の降り積もる中、寒さに震えるキミの手を握った1993

教師のコメント

ロマンチックな表現をしても、間違いは間違いです。

風見幽香のコメント

私の苦勞を返しなさい。

第16問 戦闘終了!……なのか?

「最後の一人、どうぞ」

ここにきて高橋主任の表情にわずかな変化が。

「……はい」

向こうからは学年筆頭である霧島翔子が、

「俺の出番だな」

代表である雄二が出る。

「教科はどうしますか?」

「教科は日本史、内容は小学生レベルで方式は100点満点の上限ありだ!」

その一言に、Aクラスからざわめきが生まれる。

「上限ありだつて?」

「しかも小学生レベル、満点確實じゃないか」

「注意力と集中力の勝負になるぞ……」

「わかりました。そうなると問題を用意しなくてはいけませんね。

少し待っていてください」

視聴覚室。

「では、最後の勝負を行います。制限時間は50分、満点は100点です。不正行為などは即失格になります。良いですね?」

「……はい」

「わかっているさ」

「では、始めてください」

所変わってAクラス。

「……幽香、正直どうだ?」

「流石元神童だけはあって飲み込みは早かったけど……正直付け焼

刃で満点は厳しいわね」

「……うおおおおおおお！！！！」

「……多分あの問題が出たのね」

「ああ、これで少しは楽になりそうだ」

「では、結果です」

日本史テスト 小学生レベル 100点満点

Aクラス 霧島翔子 97点

VS

Fクラス 坂本雄二 61点

「えっと……この場合はどうなるんだ……？」

「普通に考えるなら、代表を一人選んで勝負を決めるはずだけど……」

とは言っても、正直それでは厳しいといわざるを得ない。

「俺たちFクラスは、Aクラスに停戦協定を申し込む」

「何よ、そんなの受けるわけ……」

「……優子、ここは受けたほうがいい」

「何だよ！相手は所詮Fクラス……」

……こいつ、そっちの大駒の状況を全く理解してないみたいだな。

「冷静に考えてみな。そっちの上位6人が今どうなっているかを」

「確かに4人は戦えないけど、まだ代表が……」

チツ、めんどくさいな。

「霧島、今のお前の日本史の得点は？」

「……97点。戦っても多分勝てない」

「代表なのにそんなに低いわけが……ああっ！」

「やっと気づいたか。召喚獣の点数つてのは最新の点数が反映される……つまり、最後に受けたテストは上限100点のテストって事だ」

もっとも、これに気づいたのは終わった直後だけだな。

「……………要求は何よ」
「お互い3ヶ月の宣戦布告の禁止、Fクラスの設備を……………間を取ってCクラス並までの上昇ってところだな」
「……………今度は何を企んでるの？」
何を言ってるんだか。
「俺は別に何も考えちゃいないぜ？それに、こんな楽しい戦パーティーいを1週間で終わらせるのは勿体無いだろ？」

その後、停戦協定を結んでFクラスに戻る　はずだった。

「さて、帰って一緒に何か買いに行こ」
「……………飯にしちゃ早いと思うんですが。あと俺の腕に抱きつかないでください」

「だ、駄目ですよ！葵さんとはこのあと予定があるんです！」

「早苗、そんな予定無かったはずだけど！？」

「いや、私と行くの！」

「私です！」

「あ、ウチもそういえば」

「島田は黙ってて！」

「うっ……………」

何ていうか……………ゴメン。この二人のせいで。

「早く行きますよ！」

「ぐえっ！？さ、早苗、首が、首が苦しい！」

俺は思った。俺の周りの女性って何でこんなものしかないんだろうって。

第16問 戦闘終了! …… なのか? (後書き)

やっと試召戦争編終了。

PV19000、ユニーク4000突破しました。こんな小説をお気に入り登録してくれた人、感想を下さった人もありがとうございます。これからもこの小説をよろしくお願いします。

番外編 デートらしき何かと書いた日常。(前書き)

前回のあらすじ。

拉致された。(by葵)

番外編 デートらしき何かと書いた日常。

「ねえ、葵にこの服とか似合いそうじゃない？」

「風見さん、こつちもいいんじゃないですか？」

「うーん……そつちも捨てがたいわね……」

「俺どつちも着ないからな!？」

事は数分前にさかのぼる……

「葵さん、どこに行きます？」

「決まってるのに連れてかれる俺って……」

「あら、丁度服も買ったかつたしあそこでいいんじゃない？」

そう言っつて服屋であろう『永夜翔』を指す。斬新過ぎるネーミングだな。

……で、今に至るわけだが。

「俺どつちも着ないからな!？」

まあね、目の前にあるのがスカートかスカートの二択じゃこつ言っつしかないよ。

「むう……どうしても着てくれないんですか？」

「いや俺男だし……それにだ、流石に女装は店に迷惑がかかるぜ？」

「面白そうだからOKです!」

最近思う。こつちの世界つて幻想郷より常識が仕事してないんじゃないかって。

「店員仕事しろおつ!」

「さて、店員さんも許可してくれたみたいだし……ね？」

「何!?俺が着る事は確定なの!？」

「勿論よ」

デスヨネー。

で、(強制的に)着替えさせられた結果。

「はづ……可愛いです……」

「うん、いい感じね。気分はどうかしら?」

「今すぐ着替えたいです(即答)」

結局不満がられながらも着替えて店を出る。(着替えさせられた服は想像にお任せします。)

「で、次はどこ行く?」

「今すぐ帰った《グウウウ》……飯をください」

何でこんな時に腹の虫が鳴るんだ畜生。

「あら、丁度空いてるみたいだしあそこにしない?」

今度は『ザ・クレープ』か……クレープで腹が膨れるかはともかく、ネーミングが適当すぎる。

「お、いらっしやい」

「私はアップルシナモンね」

「私もそれをお願いします」

「俺は甘い具材全部で」

「はいよつと……」

「幽香に早苗、外で待ってていいぞ」

そして外に出る女子(?)二人組。

「兄ちゃん、今日はデートかい?」

「拉致られました」

店員さん、むしろあれをデートって呼ぶのかどうかすら怪しいです。

「そつちも大変なんだなあ……」

「そののねーちゃん、俺たちと一緒にガフウツ!?!」

あ、チンピラっぽいのが来た。けど相手が悪すぎる。

『ヤ、ヤスオツ!?!?』

「兄ちゃん、ヒーローになるチャンスだよ?」

「いや、俺が行っても」

『ゴメン、ついつつかり手が滑っちゃって』

ただの足手まといになるだけですよ」

『て、てめええっ!?!』

パンチを何事も無く受け止めて

『やあっ!』

早苗の躊躇無いアッパーがチンピラA（仮名）に突き刺さる。

『くっ……そがぁあっ!』

あ、ナイフ持って突撃しちゃった。そして幽香は真顔で傘構えてるし。

『どんな物も極限まで速くなれば直線になる……特別に見せてあげるわ、元祖『マスタースパーク』』

チンピラさん、あなたの事は忘れません。（多分）

「最近の女子はレーザーも放つのかい？」

「すいません、何か認識が間違ってますか？」

こんなくだらない会話をしているうちに出来上がるクレープ。

「ほいっと……とりあえず全部のせね」

「おっと……ちょっと早苗、持ってたくれ」

で、残りのクレープ×2を手取る。

「おーい、クレープ返し……」

見ると、半分以上無くなっていた。

「まさか、食った？」

「い、いや!そんな訳ありませんよ!」

「そうよ、待ちきれずに食うわけ無いじゃない」

「……二人とも、顔にクリーム付いてるぞ」

「「ええっ!?!」」

その後、ちよつとお話（肉体言語じゃないよ?）して。

「……ま、いいか」

そんなめちゃくちゃな日常がいつも通りな俺であった。

番外編 デートらしき何かと書いた日常。(後書き)

こういうストーリーは疲れる。そしてAクラス戦の「勝ったほうは」について。

正直あれ、個人的なものです。今回のデート(?)は風見のお願いに何故か早苗がついてきたみたいナノリ。

最後に一言。葵もげる。

葵「何で!?!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2082w/>

バカと花妖怪と召喚獣

2011年12月11日12時53分発行